



NPO通信

後期受講生数！前期を越えた**3,060名**（昨年前期比18,8%アップ）

2010年度は**6千名台突破**（6,113名、昨年比16,2%アップ）

後期受講されない方**499名**・・・残念・・・また来てください

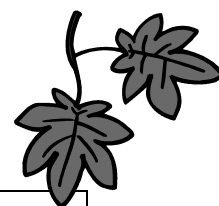
2010年度アカデミー&NPOアンケート

アンケートへのご協力有難う御座いました。NPO通信では2回に分けてお答えしてゆきます。

今回はアカデミーの諸問題についての意見とそれに対する回答です。

1. アカデミーの諸問題についての意見

アカデミーの諸問題に関して色々な意見や提言を頂きました。



項目	件数(件)	パーセント(%)
受講動機	12	1.8
アカデミーのカリキュラムと講師	199	30.0
会員制度	5	0.7
会場	30	4.5
受講料	76	11.5
世話人制度	223	33.6
広報活動	19	2.9
存続希望	37	5.6
その他	62	9.4
合計	663	100.0

2. 提言と回答

1) アカデミーのカリキュラムと講師

① カリキュラムの内容とレベル

「従来よりレベルが落ちている」、「長期カリキュラム（2年間）の提示を望む」等のご意見を頂きました。講座に関しては出来るだけ多くの受講生に聴講していただけるように、専門的でありながらわかり易い内容にする、ワークショップに関しては2011年度から2年間のテーマを提示できるように努めるべくカリキュラム編成委員の先生方をお願いしております。





② 講師の選択

「話が下手ないしは聴きづらい人は講師からはずして欲しい」、「現役の最先端で仕事をしている講師を望む」等の意見がありました。講師の選択はコーディネーターの先生方が担当なさいますので、NPOから先生方をお願いしてゆきます。また受講生の皆様方も世話人や講座担当理事に要望を伝えて、より良い講座・ワークショップを作り上げてゆく為にご協力下さい。

③ 抽選について

「抽選を廃止して受講希望者を全員受け入れて欲しい」、「抽選漏れの人たちの為の講座開設を望む」等の意見がありました。受講希望者を全員受け入れるように努めていますが、定員は施設の収容能力と安全性の面から設定せざるを得ません。その制限の中でも出来るだけ受講希望者を受け入れられるように定員制に関するルールを定めましたのでご了承下さい。



2) 会場について

「新百合、高津での講座の増加を望む」との意見を多数頂きました。NPOも新百合での講座開設に努力してまいりました。しかし新百合21は文化財団の組織下の施設、高津市民館は高津区役所の管轄下にあります。NPOは財団と協働して文化財団等に継続使用のお願いを続けています。文化財団等も生涯学習の重要性は十分に認識し、好意的に対応していただいておりますが、他の市民団体等からの使用要望が多く、これ以上の受け入れは無理といわれています。教室の確保はアカデミー存続の最重要項目であり、今後とも財団と協働して確保に努めてまいります。



3) 世話人制度について

「キツイだけでメリットがない」、「年齢が高くなり、しんどい」、「家庭の事情でやれない」等多数の意見を頂きました。しかしNPOの設立趣意書にも「アカデミーへの市民参加、市民の自主運営はアカデミー設立の原点である」と記載されているように受講生の皆様の世話人への参加がなければ講座の運営は出来なくなります。NPOも当番制の導入や役割の見直し等により世話人のみなさまの負担を軽減できるように努めてまいります。また募集方法に関しても、より多くの方々に世話人になっていただけるように、新会員制度と対応させながら次のように変えてゆく予定です。

- ① 運営世話人については受講予定者中から募集し、必要に応じて随時募集してゆきます。
- ② 募集人員数は前期の運営世話人代表と担当理事が協議して決定します。
- ③ 募集人員数が不足の場合には専攻コース（新会員制度）の会員の抽選とし、当選者に依頼します。ただし、やむをえない事情がある場合には次回にお願いする等の処置をとります。なお代表世話人に関しては負担の軽減と新陳代謝を図ってゆく等を考慮して任期を原則2年にする等の検討をおこなっています。

ご協力をお願いします。



【編集後記】「秋風にたなびく雲の絶え間より もれいずる月の影のさやけさ」

秋も深まり学習の季節となりました。NPOは「内容の充実した講座」、「よい講師」、「安い受講料」をモットーとして努力してまいります。ご支援をお願いします。 編集責任者：折居 晃一・眞田 強・笹子 まさえ